

令和7年度 田島中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 「中学生チャレンジテスト」の調査の目的

- (1) 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。
加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- (2) 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- (3) 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- (4) 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

1 全国学力・学習状況調査

※中学校理科はICT端末等を用いた、文部科学省CBTシステム（MEXCBT）によるオンライン方式（以下、「CBT」【=Computer Based Testing】とする）で実施。

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均正答率(%)		平均無解答率(%)	
			国語	数学	国語	数学
3 年 4月17日	学校	62	42	33	12.4	21.5
	大阪市	—	52	46	6.8	11.2
	全国	—	54.3	48.3	6.7	10.6

	平均IRTスコア	
	理科	
学校	426	
大阪市	489	
全国	503	

※IRTとは、国際的な学力調査等で採用されているテスト理論です。

この理論を使うと、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし（尺度）で比較することができます。

※IRTスコアとはIRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すものです。

2 中学生チャレンジテスト

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均点(点)					平均無解答率(%)				
			国語	社会	数学	理科※	英語	国語	社会	数学	理科※	英語
3 年 9月2日	学校	65	55.8	42.7	45.9	38.0	43.0	10.2	9.5	15.8	14.7	11.5
	大阪市	—	64.8	51.5	54.3	46.5	54.4	6.1	5.8	11.1	9.4	6.5
	大阪府	—	64.2	51.2	53.9	46.0	53.2	6.8	6.5	12.1	11.0	7.4

※ 3年生の理科はB問題を選択

令和7年度 田島中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

○全国学力・学習状況調査

【成果と課題】

- ＜国語＞大阪市平均と比べ10ポイント下回る結果となった。言葉の特徴や使い方に関する事項は平均に近かったが、4技能の分野はいずれも大阪市平均を大きく下回る結果となった。語彙の数を増やし、文章を正しく読み取り、自分の考えを表現していく力が必要である。無回答率は大阪市と比べ、5.6ポイント多かった。例年と比べても少し割合が高いため、最後まであきらめずに課題に取り組む力の育成が必要である。
- ＜数学＞大阪市平均と比べ13ポイント下回る結果となった。全国において正解率が高い問題に対し、本校の生徒は正解率が低い結果となった問題が多く、特に「数と式」の領域においては正解率が全国平均の50%にしか到達できなかった。無回答率は大阪市平均と比べ、10.3ポイント多く、問題を正しく読み取ることが難しいと感じた生徒が多かった。
- ＜理科＞全国および大阪市と比較して、IRTバンド2の割合が高かった。IRTバンド5の割合は大阪市平均と近かった。初めてのCBTでの実施となったが、昨年度サンプル問題を実施していたこともあり、実施形式の変更は問題なく実施することができた。しかし、CBTになったことで、以前より問題を正しく読み取ることが必要とされるようになり、課題となった。

【今後に向けて】

授業規律はほぼ確立されてきたので、生徒が授業へより積極的に参加する意欲を持たせる方策が必要と考える。さらには、情報を正しく読み取り、課題に対する解決方法を見つけ出し、課題解決へつながる力を育成していきたい。基礎的な学力を定着させるため、放課後等の時間を活用した補充学習を実施していきたい。

○中学校チャレンジテスト(3年生)

【成果と課題】

5教科すべてにおいて、大阪市平均を下回る結果となった。全国学力・学習状況調査と比べ、大阪市平均との差は小さくなった。各休業中などに行った学習会や、5月以降の授業の取り組みがにつながったと思われる。平均無回答率も小さくなっており、最後まで問題に取り組む生徒が多くなった結果である。問題形式においては「記述式」のタイプに対する平均点が低く、問題文に対する答えをどのようにまとめて記述するかがポイントではあるが問題文を正しく把握することに課題があると思われる。

教科によっては上位層の得点分布の生徒もいる一方で、全教科において下位層の得点分布が一定数おり、基礎的な学習内容の定着にも課題がある。

【今後に向けて】

記述式の問題に対応できるようにするため、問題文を正しく読み取ることができるよう、様々なタイプの問題演習を授業の中で取り組みようにしていく。基礎的な学習内容を定着させるために、授業のウォーミングアップとして基礎的な問題を解く時間を設けていきたい。それに加え、学びサポーターを活用した放課後学習会を引き続き行い、学習習慣の定着につなげたい。